

地域のくらしを見守る、共同購入

生活協同組合 コープぎふ

所在地	各務原市鷺沼各務原町
代表者	理事長
従業員数	1,194人 (このうち共同購入の支所669人) ※そのほか、宅配委託先の職員や組合員の皆様にもコープぎふ職員と同様に見守り活動に取り組んでいただいています。
業種	生活協同組合
活動開始	平成11年3月
活動エリア	県内全域 (共同購入事業の配達拠点は9支所：飛騨、益田、恵那中津、多治見、中濃、各務原、岐阜南、岐阜西、西濃) ※共同購入は、組合員の要望によって企画された商品案内カタログを組合員に配布し、ご注文いただいた商品を毎週(夕食宅配は平日毎日)お届けします。お届けの場では、担当する職員が組合員お一人おひとりと直接のコミュニケーションをはかります。

活動の経緯

平成11年3月に岐阜県内3生協(飛騨生協・岐阜地区市民生協・岐阜消費生協)が合併して生活協同組合コープぎふを発足。

平成18年から平成27年9月現在までに、コープぎふは岐阜県内の15自治体と1社会福祉協議会との間で高齢者等の見守り活動に関する協定を締結し、自治体・社協が行っている地域の見守り活動に協力しています。また、2自治体の通報窓口を確認し連携しています。

平成25年1月、組合員お一人おひとりとの直接のコミュニケーションによって展開する共同購入事業そのものが地域の見守り活動であること、また、自治体や社協が行っている地域の見守り活動に協力していくことを全県に広げ、「コープ見守りねっと」として取り組んでいくことを組織内で確認しました。コープぎふの理念「笑顔あふれる協同のくらし」、誰もが安



心して住み続けられる地域社会の実現をめざしています。

工夫したこと・特色

職員が「いつもと違う」異変に気づく感度を高めていくことが大切なため、見守り事例を組織全体で共有化するようにしました。

活動の成果、今後に向けて

異変に気づいた際、生協だけでは対応しきれません。そのため、行政や地域の皆さんとのつながりをより一層ひろげていくため、今後も個々の自治体などで行われている地域の見守り活動への参加協力をすすめていきたいと思えます。

共同購入事業での見守り活動の事例 (担当職員の日報から)

<地域の行政等へ通報、支援へつなげる>

協定締結窓口、社会福祉協議会、地域包括支援センター、自治会長さん、民生委員さん、ご近所さん、警察、救急車

・(女性) お届け時いつも直接のお渡しだが応答なし。玄関を開けて声をかけたところ額から血を流して倒れているのを発見。受け答えはしっかり。→支

平成17年度
岐阜県 安全・安心
まちづくり賞

平成27年度
岐阜県 安全・安心
まちづくり賞

所へ連絡。支所から社協さんへ連絡。→救急車を要請。お身内の組合員さんの勤務先に連絡したがつながらず。救急車到着まで付き添う。社協さんからお身内と自治会長さんへ連絡。→再度組合員さんへ搬送先病院名を連絡。消防から連絡済であった。

・(80代男性)夕食宅配お届け時、普段は在宅だが返事なし、新聞も溜まり、エアコンは動いているが電話はつながらず。→地域包括支援センターへ連絡。保健師さん訪問。→警察、ご親族へ連絡。家の中で倒れているのを発見。残念ながらお亡くなりになられる。

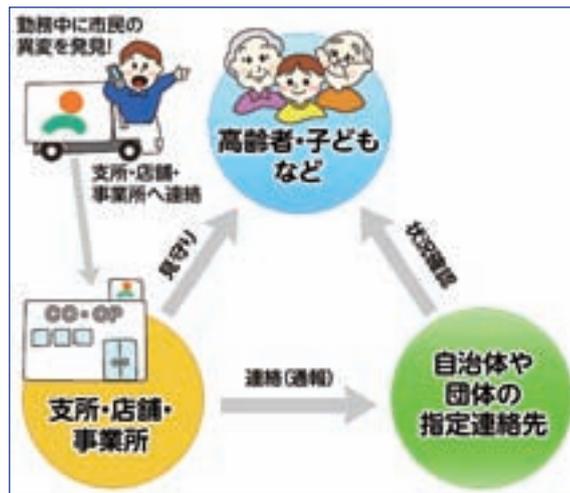
・(70代女性)夕食宅配お届け時、普段は在宅だが返事なし、当日の新聞が残っているのを発見。→お隣の自治会長さんへ状況説明。→民生委員さんへ連絡。→民生委員さんからご親族へ連絡。入院中であることが判明。

・(80代女性)お届け時「お願いします」のメモあり。お留守と思い商品配置していると、何か奥から声が。家のトイレのドアが開いており、お名前をお呼びしながら行くとしゃがみ込んでみえるのを発見。→「風邪で声が出ない。昨日子どもに病院に連れて行ってもらったから大丈夫。」と言われるが意識もうろうとして倒れてしまわれる。→救急車を呼ぶため住所を調べようと支所へ連絡。すると意識は戻られ「風邪なので呼ばなくていい。」とのこと。玄関は寒いので2階住居の部屋までお連れする。→同町内の組合員さんに話をし、お身内へ連絡をお願いする。→15時お願いした組合員さんに連絡。近所の方が見に行ってくれ大丈夫だったと確認。

・(80代女性)夕食宅配のお届け時、家の中にみえ、お話するが、ドアロックのはずし方がわからない、足を怪我されたとのこと。→心配で再訪問。ドア向こうでお話ができるが怪我で動けない様子。→地域包括支援センターさんへ連絡。→支援センターさんからお身内へ連絡。入院されることに。

<高齢者お一人暮らし…心細さ>

・(女性)ご主人を亡くされお一人暮らしの組合員さん「1人はさみしい。」「1人だと何もできない。」「倒れても誰も気づいてくれない。」→担当職員から市との間で見守り



協定を締結したことをお伝えすると、「本当に心強いわ。絶対に生協の日は家に居るので何か気づいたらお願いね。」と強くお願いされた。お届け時に少し時間をとって世間話をするようにします。

・(80代女性)お一人暮らしの組合員さん「いつ倒れとるかわからないから、おかしいと思ったら救急車を呼んで欲しい。」→お話して来週娘さんの電話番号を教えてください。

<高齢者お一人暮らし…遠方に住む子どもさんが親御さんを心配されて>

・(80代)お一人暮らし。買い物が大変だからと遠方に住む息子さんの手続きでご利用。→お届け時にたまたま居宅介護支援の相談員さんがみえ「万が一の時は連絡下さい。」と言われた。今後体調なども注意してさしあげたい。

・(女性)高齢でお一人暮らし。大変関心を持たれた火災共済について数週間説明しているが話がいつも振り出しに戻ってしまい、どうも様子がおかしい。組合員さんの理解を得て娘さんに連絡。→娘さん「実は認知症を患っています。普段はどうですか？迷惑をかけていませんか？近々母のもとに移住します。それまでどうかよろしく願います。」担当職員「担当者として出来る範囲でお見守りさせていただきます。」

<認知症の方を保護>

・注文書回収時、おかしい位置にとまっていた自転車と、石垣に座っていたおばあさんを見て、おかしいと思い、声をかける。→警察へ連絡。→自転車からすぐに家の方と連絡がとれる。おばあさんは市外から来てみえた。

<訪問販売>

・(女性)お届け時、組合員宅に訪問販売の営業の方がおられ組合員と会話中。営業の方が電話で席を外されると、組合員「実は断りたいんやけど押しが強くてなかなか断れん。困ったなあ。」→担当職員「断るまで一緒にいますので大丈夫ですよ。」→時間はかかりましたが組合員さんはなんとかお断りでき「助かったわ。ありがとう。」

<生協を通して地域の人と人のつながり>

・(女性)お届け時休む際は必ず連絡いただく組合員さんが今日は同じ班の方にも連絡なく休まれる。同じ班の方が商品を購入しお宅へ届けてくださることに。→同じ班の方がお宅へ届けると、具合が悪く苦しんでいる組合員さんを発見。別の場所で作業中のご主人に知らせ、救急車を要請。→入院されることに。組合員さんより「あの日、生協があって本当に良かった。」「生協のおかげで気付いてもらえた。」→担当職員より…毎週なんでもない会話をしたりと、組合員さんと接する大切さを改めて実感。

<買い物支援>

・(男性)組合員さん「生協が配達してくれるから本当に助かっている。」「また楽しみに待ってるからね。」→担当職員より…いろいろな話をしてくださり、組合員さんは買い物に本当に困っておられ生協の役割が大きいことを実感。週に一度だけお会いし、会話が出来る時間を大切にしていきたい。

<防火>

・配達中、お店の看板に火がついているのを発見。→その家の方にお知らせし、火事を未然に防ぐ事ができた。

<共同購入事業=見守り活動 職員より>

・担当職員より…心配りや気遣いをコミュニケーションの一つとして大切にしています。普段お会い出来る方へは、どんなに忙しくても、2、3分はコミュニケーションをとるようにしたり、年配の方にはいつも「体調はどうですか？」と声をかけるようにしています。